

1. NPO活動ステップアップ支援事業について

①集成型研修

- ・今年度の新規参加団体（昨年度からの参加団体は除く）が目標20団体のところ、26団体を達成。計画を上回る実施で、なおかつ、参加団体の90%から「B：一定の成果を得られた」以上の評価を得ており、参加団体の活動基盤の強化が図られている。

②専門家派遣による個別支援

- ・委託先の高知県ボランティア・NPOセンターが団体別に事前カウンセリングを行うことで、団体の課題やニーズを洗い出し、支援計画を策定したうえで、専門家派遣を実施した。これらの取組により、効果的な事業実施がなされている。

2. NPO活動強化支援事業について

- ・最近では、事業型のNPOが増え、経営力を向上させるような基礎的なノウハウ抜きに事業を進めるNPOも多く見受けられるようになってきている。
- ・参加者が少ない点で、受託者自身の評価は「B」となっているが、高知県西部地域の中間支援組織による、活動基盤強化の研修等を開催すること自体が初めての事業であって、今後に向けた基盤の形成には成功している。

3. NPOとの協働モデル事業について

- ・今回の協働モデル事業は、5団体以上の組織が協働することが要件となっていたことから、「NPOと行政」だけでなく「NPOとNPO」との協働につながった。とりわけ、都市部で力を蓄えたNPOが中山間地域に出かけて地域のNPOや市町村と協働し、郡部のNPOの活動強化を支援するという新しいスタイルが生まれた。これらのスタイルが今後どのように継続されていくのかが注目される。
- ・協働の取組は、事業によって、NPO側が熱心であったり、行政側が熱心であったりと様々見受けられるが、NPOと行政の協働にそのバランスは必要ない。両者の思いが一致していなければ、継続性が持続しない。事業のためにどう両者が取り組むかではなく、その取組が地域に広がり、地域がどう継続させていくかが、残り後半の事業期間の大きなポイントになる。
- ・うまく協働が進んでいる事業を見ると、公務員が仕事とは別に、地域のNPO活動に参加し、NPOと行政とのつなぎ役を担っている。新しい公共を担う人材や新しい公共による事業のモデルを生み出す可能性が感じられる。
- ・運営委員による事業の現地視察を実施したほか、事業者同士や県民の協働への理解を深め、今後の取組の参考となるよう中間報告会を開催するなど、事業全体としても、順調に事業実施できている。

4. NPO寄附募集支援事業について

- ・3月の「第2回ファンドレイジング・ジャパン in こうち」開催に向け、着実に準備を行っている。

5. 運営委員会の開催、議事事項について

- ・計画どおり順調に実施している。

6. 事業全体について

- ・中山間対策の取組が1事業予算化されなかったことは残念だが、全体としては順調に進んでいる。